





28 陶彫唐獅子 沼田一雅 一對

昭和三年（一九二八）
 陶磁 阿像・五六・五×四三・五×六七・五
 卍像・五六・〇×四三・五×六八・五

一見すると重厚なブロンズ製の狛犬かと錯覚するが、これは陶彫と
 いうて、獅子をかたどったやきものである。作者の沼田一雅（一八七
 三〜一九五四）はフランスの国立セーヴル製陶所で学んで、日本に初
 めて本格的な陶磁による洋風の彫刻表現をもたらした人物である。本
 作は昭和三年、秩父宮家より東京美術学校校長正木直彦を通じて沼田
 に依頼があり、表町御殿玄関脇の置物として制作された。ブロンズで
 はなく陶彫としたのは、やきものにも造詣が深かった雍仁親王のご提
 案であったという。「唐獅子」と名付けられてはいるが、巻き毛で表
 現されたたがみについては狛犬のそれを連想させるものの、わが国
 の伝統的な唐獅子の図像を踏襲することはなく、背骨や肋骨、筋肉の
 表現にも留意して、現実のライオンを想起させる姿を生み出している。
 一方、猛々しい顔の表現は、西アジアの古代彫刻を彷彿とさせる迫力
 のある出来栄で、かつて日本に存在しなかった唐獅子像であると言
 えよう。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

虎・獅子・ライオン

— 日本美術に見る勇猛美のイメージ

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 51

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十二年七月十七日発行

© 2010 The Museum of the Imperial Collections